

設立30周年記念誌

シルバー ひこね

— 30年のあゆみ —



国宝彦根屏風(第1・2扇)



公益社団法人 彦根市シルバー人材センター



彦根市の概要

琵琶湖と鈴鹿山系など豊かな自然に恵まれた「城と湖と緑のまち」彦根市は、古くから京の都と東国・北陸を結ぶ交通の要衝で、豊かな穀倉地帯として名を馳せてきました。特に、豊臣時代に石田三成が佐和山城主となってから、町は次第に繁栄し、その後関ヶ原の戦功で井伊直政が彦根の地に封ぜられ、その子直孝の彦根城築城により、井伊家三十五万石の城下町として産業・政治・経済の中心地としてさらに繁栄し、現在に至るまで歴史的、文化的な風情を色濃くとどめるとともに、中世から近世にかけての貴重な歴史遺産を今に受け継いでいます。

また、明治以降今日まで、第二次産業の集積や高等教育機関の立地等が相次ぎ、昭和12年(1937年)2月11日に1町5村が合併して彦根市の市制を施行し、その後近隣8町村との合併を重ね、今日人口11万人の名実ともに「琵琶湖東部の中心都市」として着実に歩んできました。

今、彦根市では、これら数々の魅力を活用し「風格と魅力ある都市」として「訪れたい」「働きたい」「住みたい」と思えるまちをめざした取り組みが進められています。



冬・雪の玄宮園



夏・花火大会



秋・小江戸彦根の城まつりパレード

彦根の四季



春・桜満開の彦根城

会員 川崎 清 撮影



題字 西川静夫

国宝彦根屏風(ひこねびょうぶ)
江戸時代初期に描かれた風俗画。近世初代風俗画の代表作の一つで、浮世絵の源流ともいわれる。
紙本金地著色、六曲一隻、縦94.0cm横271.0cm(本紙のみ)の屏風画である。1995年に国宝に指定。国宝指定名称は「紙本金地著色風俗図」彦根市所蔵、彦根城博物館保管。

目次

ごあいさつ	理事長 横田 英二 ● 3	更なる飛躍 中期計画 ● 3 6
お祝いの言葉	彦根市長 大久保 貴 ● 4	これからの出来事 ● 3 7
	彦根市議会議長 谷口 典隆 ● 5	会員・職員の声 ● 3 8
	滋賀県知事 三日月大造 ● 6	写真で見るシルバーの活動 ● 4 6
	滋賀労働局長 野田 律 ● 7	30年の事業実績 ● 5 1
公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会会長	須藤 忠雄 ● 8	役職員のうつりかわり ● 5 4
公益社団法人滋賀県シルバー人材センター連合会会長	岡村長太郎 ● 9	会員互助会の活動 ● 5 7
	この30年節目の記録 ● 1 0	組織図 設立30周年記念誌編集委員会 ● 6 0
	発注者様からのお祝いメッセージ ● 1 2	拠点施設 所在地・規模 編集後記 ● 6 1
	お祝いメッセージ ● 1 7	
	30年のあゆみ ● 1 8	(敬称略させていただきました)

祝

公益社団法人 彦根市シルバー人材センター 設立30周年



設 立 年 月 日	昭和60年2月26日
法 人 認 可 日	昭和60年3月19日
公益社団法人認可日	平成23年5月 2日

現在の概要（平成26年度）

会 員 数	1,009名
会 員 年 齢	71.5歳
粗 入 会 率	3.06%
受 託 件 数	6,727件
就業延日人員	93,825日人
契 約 金 額	409,672,978円

まちを作る！ まちが生きる！ 地域社会の担い手 シルバー人材センター

地域貢献

地方公共団体と連携し、
地域住民の生活をサポー
トしています。

地域再生

様々な活動を通して、地
域再生にも大きく貢献し
ています。

高齢者の生きがいづくり

就業や社会参加活動を通
して、高齢者の健康で生
きがいのある生活づくり
をサポートします。



設立30周年を迎えて



公益社団法人彦根市シルバー人材センター
理事長 横田 英二

公益社団法人彦根市シルバー人材センターは本年設立30周年を迎えることができました。

市当局を始め、日頃より格別のご指導、ご支援を頂きました関係機関、市民、発注先様の賜物と深く感謝申し上げます。また記念すべき年を迎えることができましたことは、設立以来今日まで当センターの発展にご尽力頂きました、歴代役職員の努力、会員皆様の熱意ある成果のお陰と感謝申し上げ、皆様とともに心からお慶び申し上げたいと存じます。

顧みますと、昭和60年2月に設立総会を開催、3月に滋賀県知事より認可を受け会員58名でスタートしました。平成7年に10周年を迎え平成6年度末会員357名、事業契約金額151.0百万円、平成17年には20周年記念式典を挙行し、平成16年度末会員615名、事業契約金額269.2百万円へと推移し、平成26年度末会員数は1,009名、事業契約金額409.7百万円の実績を上げるまで成長してまいりました。また平成23年5月からは、公益社団法人となり益々公益性が求められ重大な責務が求められております。

今、「会員拡大」「就業機会の拡大」を目標に「自主・自立」「共働・共助」の基本理念のもと、知恵を出し合い、一致団結し、楽しく健康で生きがいを目的とするともに地域社会貢献を積極的に行い、シルバーを信頼していただく様努めております。

しかしながら、高齢者を取りまく環境は今大きな転換を迎えております。年金支給年齢の見直し、雇用延長となる高齢者も益々増加し、センターへの入会数の減少として現れて大変厳しい状況となってまいりました。

今後の社会情勢の変化で高齢社会が一層進展する中、シルバーに寄せられる期待の大きさを受け止め、健康で活力あるセンターの存在は高まっていくものと確信して全員努力していく所存です。

今回設立30周年に事業として、時節柄当センターの歴史を振り返る、記念誌発刊のみとさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

結びにあたり関係各位の皆様には、今後一層のご指導、ご支援を重ねてお願い申し上げますと共に当センターの益々の発展と、皆様方のご健康とご多幸を祈念申し上げご挨拶といたします。

お祝いの言葉

彦根市長 大久保 貴



公益社団法人彦根市シルバー人材センターの設立30周年を心からお祝い申し上げます。

彦根市シルバー人材センターは、昭和60年2月に設立されて以来、地域の高齢者の皆様の就労や社会参加、生きがいづくりの促進に励んで来られました。設立当時は117名であった会員数も、現在は1,000名を超え、年間受託契約件数も当初の290件から現在では6,516件となるなど着実に業績を築き上げてこられました。

これもひとえに、『自主・自立』『共働・共助』の基本理念のもと活動されてきた、歴代理事長をはじめ役職員の方々ならびに会員の皆様のご尽力の賜物と深く敬意を表する次第です。

さて、少子高齢化が急速に進む我が国において、高齢者の皆様が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるようになるためには、彦根市シルバー人材センターの会員の皆様に代表されるような元気で意欲ある高齢者の皆さんが、社会を支えるキーマンとして地域で活躍されることが重要です。

本市におきましては、現在、平成27年度から平成29年度までの3年間を計画期間とする『第6期彦根市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画』を策定しております。この計画では、『地域の支え合いの中で高齢者が生きがいを持って暮らせるまちづくり』を基本理念に掲げ、高齢者の皆さんの“出番づくり”と“居場所づくり”をさらに進めてまいりたいと考えておりますので、今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、彦根市シルバー人材センターのますますのご発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

設立30周年を迎えて

彦根市議会議員 谷口 典隆



この度、彦根市シルバー人材センターが設立30周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

会員の皆様におかれましては、日頃より市政に対しましてご理解とご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。

彦根市シルバー人材センターが昭和60年に設立以来、会員数・事業実績が着実に増えておりますのも、シルバー人材センター事業の「自主・自立・共働・共助」を基本理念に、役職員をはじめ関係者の方々のたゆまざるご努力と、会員の皆様の真面目で丁寧な仕事ぶりが、地域社会から高い評価を受けられている現れであると、心から敬意を表する次第でございます。

さて、わが国は平均寿命が男女とも世界でも上位の長寿大国で、2.5人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上の高齢者という本格的な超高齢社会が到来しています。

近年はいわゆる団塊の世代の退職を迎え、毎年100万人ずつ65歳以上の人口が増加しておりますが、これまで社会の様々な分野の第一線で活躍してきた経験を生かし、超高齢社会を先導する役割と、雇用、就労、社会参加活動における活躍が期待されています。

これらの活動の窓口となるシルバー人材センターの役割とその意義は、誠に大きいものがあると考えます。

超高齢社会を迎えた今日、より活力ある社会にしていくためには、高齢者の皆様が、長い人生の中で培ってこられました経験や技術を生かして、生涯にわたり、自らの健康を保持しながら積極的に社会に参加・貢献していける気運の醸成が大切であると思っております。

市議会といたしましても、高齢者が働くことの喜びや、生きがいを感じられるような事業の推進に努力してまいり所存でございます。

皆様方も、社会の役に立っているという誇りと自覚を持って、今後ともご活躍いただきますようお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、彦根市シルバー人材センターの今後のますますのご発展と、皆様のご健康とご多幸を心から祈念いたしまして、私のお祝いのことばといたします。

設立30周年を祝して

滋賀県知事 三日月 大造



公益社団法人彦根市シルバー人材センターの設立30周年を心からお祝い申し上げます。

彦根市シルバー人材センターの皆様におかれましては、市民に信頼されるシルバー人材センターを目指し、就業機会の確保やセンターの活動の普及と啓発に努め、高齢者の活躍する場の充実を図ってこられました。その結果、現在、会員数は設立当初の8倍を超え、約1000名の会員の方がおられると伺っております。

これも、ひとえに、歴代の役職員の皆様のご尽力と会員の皆様のご努力によるものと、深く敬意を表します。

さて、近年、我が国では少子高齢化の進行に伴う労働力人口の減少などにより、社会の活力維持に支障が出るのが懸念されております。その一方で働く意欲のある高齢者の方は、年々増加しております。今後、本格的な人口減少社会の到来を迎える中で、活力ある地域社会を築いていくためには、そうした高齢者の方々の知識と経験を十分に発揮していただくことが必要不可欠であり、シルバー人材センターに対する期待はますます大きくなってまいります。

県といたしましても、高齢者の方々をはじめ、全ての人に居場所と出番がある「共生社会・滋賀」の実現に向け、地域での生きがいや活躍の場づくりにつながる活動の支援など様々な取組を推進しているところです。今後とも皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、公益社団法人彦根市シルバー人材センターのますますの発展と、会員の皆様のご活躍、ご健勝をお祈りいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

設立30周年を祝して

滋賀労働局長 野田 律



公益社団法人彦根市シルバー人材センターの設立30周年を心よりお祝い申し上げます。貴センターにおかれましては、地域に根差した地道なご努力により着実な成果を挙げられ、平成25年度では会員数が979人で設立当初の17倍に増え、年間契約額が3億8千万と設立当初契約額の38倍に増加し、輝かしい発展をされているところであります。この成果はひとえに理事長をはじめ、役員、職員、会員の皆様方のシルバー人材センター事業に対するご尽力の賜物と深く敬意を表する次第でございます。

さて、最近の県内の経済情勢をみますと景気は緩やかに回復しつつありますが、雇用情勢は改善の動きが弱まっております。また、高齢者の雇用状況におきましては、定年後の高齢者の雇用確保措置を実施している企業は県内で96.9%となり、着実に高齢者雇用対策が進展しているところでございます。

また、我が国の労働力人口（推計）は、2013年の6,555万人から2030年には5,683万人となり、872万人減少することが見込まれており、労働力不足は今後さらに深刻化することが見込まれます。一方、平成26年度以降は、660万人の団塊の世代が65歳に達し、65歳以上の人口が総人口の25%を占めるようになる中で、継続して働くことが可能な高齢者が多く存在しており、潜在的な労働力として期待されております。

このような情勢の中で、意欲と能力がある限り働き続けることができる社会、いわゆる「生涯現役社会」を実現していくことが重要な課題でございます。また、人材不足対策のひとつとして、従来から取り組んでいただいている、シルバー派遣事業の一層の拡大を図ることをお願いしているところでございます。

このような取組を通して、貴センターが高齢化社会に向けて強力な担い手となっていかれることを大いに期待しております。

滋賀労働局といたしましては、今後もシルバー人材センターの事業の更なる拡充や高齢者の生涯現役雇用制度の普及に努める等、「働きやすい滋賀」を目指して業務運営を行う所存でございます。

最後になりましたが、30周年を機縁として公益社団法人彦根市シルバー人材センターが地域における高齢者の就業・雇用の総合拠点として、益々の発展をされるとともに、会員の皆様方のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

設立30周年を祝して

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会
会長 須藤 忠雄



公益社団法人彦根市シルバー人材センターが設立30周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴センターにおかれましては、昭和60年に設立以来、長きにわたり「自主・自立、共働・共助」の理念の下に積極的にシルバー人材センター事業を展開され、多様なサービスを提供し、地域社会に大きく貢献されています。これもひとえに会員の皆様方と役員のご努力の賜物と深く敬意を表します。

少子高齢化を伴う人口減少社会の下で、高齢者が生涯現役として多様な形態で社会参加でき、安心して充実感をもって生活できる社会を創りあげていくことが重要です。

一昨年6月に、厚生労働省の「生涯現役社会の実現に向けた就労のあり方に関する検討会」の報告書におきまして、高齢者が、就労等を通じて地域社会で「居場所」と「出番」を得られることや、高齢者自身がその蓄積された知識・経験を活かして、地域社会の「支え手」となり、健康で意欲を持ち続けながら生涯を送ることのできる「生涯現役社会」の実現に向けた就労・社会参加のあり方の基本的な考え方とそのための方策が提示されています。

この中で、シルバー人材センターのさらなる活用が掲げられており、今後は、特に、「就業機会の拡大」と「会員の拡大」を一層推進し、地域の高齢社会を支える中核的な組織としての役割の期待に応えることが必要となっています。

また、地域住民の方や関係団体と融和した社会参加活動の企画・運営にも取り組んでいただきたいと思っています。

終わりに、シルバー人材センター事業を取り巻く環境は、さらに厳しさが増している現況にあります。貴センターの益々のご発展と会員の皆様並びに関係者各位のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

設立30周年を祝して

公益社団法人滋賀県シルバー人材センター連合会
会長 岡村 長太郎



公益社団法人彦根市シルバー人材センターの設立30周年にあたり、心からお祝い申し上げます。

昭和60年2月の設立以来、30年という永きにわたり、地域の高齢者の方々とともに、シルバー事業を通じて、地域貢献に努めてこられました数々の功績は、誠に輝かしいものであり、大きな成果を納めておられますことに、心より感謝申し上げるところでございます。

このことは、ひとえに、横田現理事長をはじめ歴代の役員、また会員の方々の日々のたゆまないご尽力の賜物と深く敬意を表すところでございます。

ご存じのとおり、日本社会はいま、4人に1人が65歳以上の高齢者というかつて経験したことのない超高齢社会に突入しております。

高齢者が元気で生きがいを持って、健康維持をしながら、地域社会を支える一端を担うことが求められていると言えます。

こうしたなかで、シルバー事業が担うべき役割りがますます重要になっていると思われまます。

公益社団法人彦根市シルバー人材センターでは、緑の維持管理や施設管理、さらには子育て支援など、多様なニーズに対応され、健やかな会員各位の活躍には目を見張るものがあり、今後さらに飛躍され、業績を伸ばされるものと期待いたしております。

「幸福な老い」あるいは「成功した加齢」のことをサクセスフル・エイジングと呼ぶそうですが、シルバー事業が、会員の皆さんに幸せと生きがい、さらに健康維持をもたらし、自己実現欲求を達成されるというサクセスフル・エイジングのお手伝いが出来れば、関係者一同、本当に幸甚なこととさせていただきます。

設立30周年を機に、公益社団法人彦根市シルバー人材センターの皆様方が、シルバー事業というかけがえのない翼で、さらに大きく飛翔されますことを祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。

この30年節目の記録

設立

社団法人 彦根市シルバー人材センター
設立趣意書

本格的な高齢化社会の到来を迎え、定年退職後等において常用雇用ではなく、何らかの就業を通じて自己の労働能力を活用し、自らの経験と能力を生かしながら、生きがいの充実や社会参加とあわせて、収入を得ることを希望する高齢者が増えつつあります。

また、地方では、経済社会の進展に伴って公共機関、民間事業所、あるいは家庭等において補助的、短期的な労働力の需要が増加している傾向にあります。

ここで、関係諸団体等の協力を得て高齢者自らが「社団法人 彦根市シルバー人材センター」を設立し、高齢者の就業に関する情報の収集や提供、調査研究、就業の相談および地域社会に密着した補助的、短期的な就業を希望する高齢者に対する就業機会の開拓など、地域の事情に即した事業を行うものです。

このシルバー人材センターは、高齢者がその豊かな経験と能力を生かし、仕事を通じて地域社会に貢献できる機会と条件をつくることを目的として設立しようとするものです。

昭和六十年二月二十六日

創立5周年記念

式典 感謝状贈呈 表彰状授与
平成2年5月29日
於 彦根市老人福祉センター

記念誌の発行



設立10周年記念

式典 講演会 祝賀会
平成7年10月6日
於 彦根商工会議所

記念誌の発行



式辞 足田理事長

設立20周年記念

式典 感謝状贈呈 表彰状授与
平成17年3月13日
於 ひこね市文化プラザ

式辞
山上理事長



被表彰者の皆さん



会場風景



アトラクション

フルート演奏



民謡

お楽しみ抽選会



当選おめでとう!

記念誌の発行



設立30周年をお祝いして

株式会社 平和堂

設立30周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

設立以来、弊社の成長、発展にご尽力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

設立をされた1980年後半は、日本全国がバブル経済に沸き、多くの企業が業容の拡大をしている時期でありました。また、男女雇用機会均等法が施行され、雇用環境も転換期を迎えた時期とも重なります。

流通業においては、この時期、大店法の規制による新規出店の困難化、新業態の開発、専門店の勢力拡大と総合スーパーを取り巻く環境が大きく変化をした時でありました。

そうした中、弊社は滋賀県、福井県、京都府と商圏の拡大を図り、グループ全体の年間売上高も1,500億円に迫る規模となった飛躍の時代でありました。

それから30年、時代は人口減少、少子高齢化が顕著となり、業界を問わず、人材の確保、有効活用が叫ばれるようになりました。

また、女性の活躍推進の積極化、高齢者雇用継続基本法制定など潜在化していた資源を活性化しようと環境整備が進んでまいりました。

特に、リタイアメントされた方であって能力が高く、意欲が旺盛で元気ハツラツの高齢者という貴重な財産を活用する仕組みとしてシルバー人材センターの存在意義はかつてなく高まっております。

弊社が本社をおく彦根市のシルバー人材センターからは、弊社の拡大と相まって、多数のパートナーを派遣いただきました。平成26年には、彦根市内7事業所に80名を超える方が無くてはならない戦力としてご活躍いただいております。

今後も会員の皆様が培ってこられた知識や経験を賜り、貴重なパートナーとしても成長していければと存じます。

最後にシルバー人材センターの益々の発展と、会員皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



設立30周年をお祝いして

株式会社 中広 『KONKI CLUB』企画編集室

設立30周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

弊社は「地域を元気に、地域に活力を」のかけ声のもと、地域みっちゃく生活情報誌の全国展開を図っている会社です。

彦根市では2005年に月刊『KONKI CLUB(こんきくらぶ)』を創刊し、今年の4月でちょうど10周年を迎えます。シルバー会員の皆様には創刊号から毎月、彦根の市街地から山間部にいたる各ご家庭に弊誌を一軒一軒手配りしていただいております。現在、選り分け・配布員を含め135名の方々が『KONKI CLUB』に携わっていただいているとお聞きしました。ありがたく、感謝の気持ちでいっぱいです。

情報誌の刊行は編集・企画会議から始まり、ご家庭への配布で終わります。毎月この繰り返しですが、配布は最後の締めとして、とても重要な仕事と位置付けています。

彦根市シルバー人材センターさんの機関紙『シルバーひこね』に、弊誌を創刊号から配っていただいている会員さんの声が掲載され、思わず目頭が熱くなりました。会員さんはいつも重い弊誌の束を一輪車に載せて、一冊一冊配っていただいているとのこと。

「嬉しいことは、配っている家の方から『ご苦労様』とか『待っていたよ』などと声をかけてくださることである。私もポストに入れるとき、家の方のお顔が見えたときは『こんきくらぶです』と声をかけることにしている」

この記事を目にしたとき、酷暑の日も厳寒の冬の日も、いつも変わらぬ声かけで弊誌をご家庭に届けていただいている会員さんの姿を思い浮かべました。

シルバー会員の皆さんの温かいお気持ちと心配りに感謝申し上げ、今後とも変わらぬお力添えをいただきますようお願い申し上げます。



設立30周年を祝して

社会福祉法人 さざなみ会 特別養護老人ホーム さざなみ苑

この度は、設立30周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

特別養護老人ホームさざなみ苑では、平成14年の開苑以来、彦根市シルバー人材センターの皆様には大変お世話になっており、厚くお礼申し上げます。

当苑では、施設の宿直管理業務や、介護補助業務、清掃業務等を依頼しております。毎夜の宿直管理業務においては、1年365日、天候の厳しい中でもご利用者・職員の安全安心のため、施設内外の巡視や防犯面で日々大変なご苦勞をお掛けしています。

また、介護補助業務では、人生経験豊富な会員の皆様に、若い介護職員とはまた違った目線で、ご利用者のお世話をお願いし、喜んでいただいています。

清掃業務においては、施設内を隅々まできめ細かく掃除をしていただき、ご利用者の皆様に気持ちよく過ごしていただいています。

このような会員の皆様のご協力、ご尽力があればこそ、われわれ職員は安心してそれぞれの業務に携わることができます。本当に感謝申し上げます。

今後ますます少子高齢化が進むなか、当苑といたしましても高齢者福祉に微力ながら邁進するとともに、会員の皆様のご協力をいただきながら、より良い介護を目指し、地域福祉に貢献をしていく所存です。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝、ご活躍と貴センターの益々のご発展を祈念いたしまして、簡単ではございますが、お祝いの言葉とさせていただきます。



設立30周年をお祝いして

近江鉄道株式会社

設立30周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

弊社は、1896年に創設されて以降、グループ会社を含め、鉄道・バス・タクシー・船舶・索道などの総合交通と、サービスエリアなどの観光レジャー施設、その他旅行斡旋・自動車教習業など、滋賀県を中心に、積極的に営業を展開しており、本社を彦根市に置いております。

シルバー人材センター様からは、2名の方に日替りで、本社ならびに駅の清掃に来ていただいております。毎朝、社員より早く出勤いただき、元気に「おはようございます!」とご挨拶いただき、われわれ社員も、気持ちよく仕事をスタートすることができております。

社屋の清掃と言いましても、業務の範囲も内容もさまざま、日々大変だと思いますが、いつも笑顔でご対応いただいております。また、社屋の清掃時に、気づいていただいたことなどは、すぐに社員にご報告いただき、その後の対応についても柔軟に対応していただけるので、大変助けていただいております。

今後、労働人口の減少が見込まれる我が国において、高齢者の意欲と能力に応じて、さまざまな社会活動に参加していただくことは必要不可欠であり、貴センターの会員の皆様のお力は今以上に大きなものになれるものと確信いたしております。

どうか会員の皆様におかれましては、日々、健康で元気にご活躍いただき、あわせて貴センターのますますのご発展と、会員の皆様方のご健勝をお祈りいたします。



「埋木舎」庭園清掃はシルバーさんのお蔭



「埋木舎」当主 大久保 治男

井伊直弼公が17歳から32歳までの15年間、茶道・歌道・謡曲・禅・国学・焼物等、さらに武術・柔術・弓馬等文武両道を修練した藩の公館「埋木舎」が彦根城多門櫓前堀端に約三百年前の姿のまま残っている。国特別史跡である。茶室「樹露軒」での「一期一会」の直弼茶道は有名である。居合術でも「新心新流」で「他と争わず勝を保て」と謂われた。

これら埋木舎における人格形成があったればこそ、直弼は後に藩主になり大老となつて、ペリー来航時、未曾有の国難に際し、国際協調主義で我が国の平和を維持できたのである。

明治四年以来、埋木舎は各種功績により藩庁より大久保家に贈られ、代々死守して私で五代目になる。昭和60年より6年かけて全面解体修復がなされ、平成3年より一般公開が行われて25年になる。その間、庭園清掃はずーっとシルバーさんをお願いして、四季の美しさを保ち、直弼の心を現在に伝えています。来館者を慶ばせていただいている。

感謝！ (武蔵野学院大学名誉学長)



埋木舎

設立30周年 おめでとうございます

ふれあいの家ひらた利用者 水波 堯

私は、ふれあいの家ひらたでお世話になっています。毎週水曜日の開所日は、10数名が寄り集まって、手芸をしたり歌やクイズをしておしゃべりに花が咲きます。利用者は独居の方も多く、自分の家ではあまり話すことがないので盛り上がります。時には平田川の花見に出たり、民謡や座敷音頭などの公演があります。

シルバーのボランティアの方が、その日の昼食を準備をしたり、遊びをいろいろ考えてくれます。大変お世話になりながら、何のお返しもできませんので、時々新聞などからニュースやクイズなどを切り抜きコピーして使ってもらっています。これからもシルバーのボランティアの方に、甘えて喜んで過ごさせていたいただきたいと思ひます。

高齢社会が進む今、このような施設は大切です。ますますの発展を祈念します。



座敷音頭 会員 角川義信

設立30周年によせて



前 公益社団法人彦根市シルバー人材センター理事長
前 公益社団法人滋賀県シルバー人材センター連合会会長

山 上 洋 介

公益社団法人彦根市シルバー人材センターが、設立30周年を迎えることができましたことは誠に喜びに堪えません。心よりお祝い申し上げます。

今日まで当センターの発展にご尽力頂きました役職員・会員の皆様に、心からなる敬意と感謝を申し上げます。

また今日の発展は、彦根市ご当局はじめ地域の皆様の格別なご支援の賜物でもあり、ここに厚く御礼申し上げます。

私も平成10年に当センターのお世話になり、平成15年からの8年間不肖を顧みず重責を務めさせて頂きましたが、深刻な不況に加えて行財政改革の加速化から、国・地方共に大変厳しい財政事情の中にあつて、役職員・会員の皆様と共に悪戦苦闘したことがつい先頃のように思い起こされます。

平成15年には深刻な不況の中で、製造業を主体に民間の受注が減少し、平成18年の指定管理者制度の導入の際には、主力業務の市営駐輪場管理からの撤退があり、更に平成22年には請負業務の見直しと労働者派遣制度への切り替えもあつて、就業機会の確保に大変苦慮しましたが、会員参画での総力を挙げた受注活動の結果、新規の受注を開拓し且つ拡大出来たことは大きな収穫でした。

とりわけ、平成21年民主党政権下の事業仕分けに於いて評決された「補助金の三分の一縮減」は、シルバー人材センター事業の存続にかかわる大変な問題でした。

高齢者の就業を支援するシルバー人材センターの事業が仕分けの対象とされたのは極めて遺憾であり、全国のシルバー人材センターの会員による115万人の署名活動をもって見直しを求めました。当時全シ協の事業部会長の任にあつて、私も国会(幹事長室)及び厚生労働省に再三出向いて強く要請いたしましたが、残念ながら私達の願いは叶いませんでした。

このため当センターでは、会費及び事務費を見直して自主財源を確保する一方、事務局職員の減員と給与の見直し及び諸経費の徹底圧縮等、身を削る対策を図って難局を克服し、体質の強化を果たすことが出来ましたが、この際の役職員・会員のご理解とご協力は決して忘れることは出来ません。

少子高齢化が一段と進行するなか、シルバー人材センターの果たす役割は一段と重要になって居り、「自主・自立」「共働・共助」の理念のもと、今後更に一層の発展されることを願って止みません。